



コースに無理があったという声も多く

### 寄居町駅伝

町公式HP  
駅伝競走大会



**問** 第63回寄居町駅伝は、コース設定も含め批判的なご意見が多く寄せられましたが、コース変更の経緯を伺います。

**答** 警察の指導により、国道や主要県道の使用不可、往復路等、二重の交通規制が発生しないコース取りを求められるなどしたため、変更しました。

**問** 関連団体との協議は事実上の事後報告であったと聞きましたが、この点について伺います。

**答** コース設定に時間を要し、結果的に説明不足になったことは否めません。

**問** 警察への相談内容を伺います。

**答** コース設定の確認など、10回ほど相談しました。

### 優先順位が違うのでは

**問** 混雑するリレー地点や直角に曲がる箇所が多いなど、アスリートファーストとは思えませんが、苦情などについて伺います。

**答** そのようなご意見も含め、ご意見をいただきました。

**問** この大会は、マラソンの日本記録保持者である設楽悠太選手のほか、多くの箱根駅伝出場者も出場するなど、由緒ある大会です。以前のように全町を巡回するなど、来年以降の運営に関する考えを伺います。

**答** 主管団体である寄居町陸上競技協会を中心に、寄居町体育協会やスポーツ推進協議会等の各団体と寄居警察署も含めて、協議を重ねて運営していきたいと考えています。

### 今後の運営、その方向性は

**答** 陸協など各団体と協議を重ねて運営します



神田 崇議員

### “孤立死”を未然に防ぐには

**答** 地域の見守りネットワーク強化を図ります



田母神節子議員

### 高齢者の孤立死

寄居町社会福祉協議会



**問** 今年早々、町内において高齢者が行方不明になり、死亡する事故がありました。犠牲になったのは80代の女性で、デイサービスの職員が女性がいないと気づき、ご近所や地域の方が総出で探しましたが見つからず、他地区の方が犬の散歩中に発見、この間6日間くらいかかったようです。

なぜ、こんなに時間がかかったのでしょうか。連絡体制や防災無線等に、問題はありませんでしたか。

**答** 町内事業所や関係49団体による「互助のまちづくりネットワーク」が組織されており、主要事業として見守りネットワークを構築し、地域で異常を発見した場合、包括支援センター社会福祉協議会へ連絡することになっています。

平成29年度から迷い人の一斉捜索を提唱し、防災行政無線放送で迷い人の放送を聞いた場合、自宅や事業所の周りを確認する運動を展開しています。

### 再発を防ぐ対策強化を

**問** 高齢者世帯は6866、1人暮らしの方は1187人、認知症の方は112人(想定)と、年々高齢化が進行する状況です。このような事故が二度と起こらないよう、どう対策を強化しましたか。

**答** 認知症への理解を深めるための施策の推進と、各地区の「地域支えあいの会」等と連携しながら、高齢者の状況を把握し、地域の中での取り組みを検討する協議体を設置し、高齢者の生活支援を強化します。



交流が元気のもと



昼食用弁当が届く「ふれあい配食サービス」

### 高齢者向け食事

利根町社会福祉協議会配食サービス



**問** 平成29年の調査で、町には一人暮らしの高齢者が1187人います。高齢者は、咀嚼力(食物を噛み砕く力)も衰えて固い物が食べられず、栄養不足が心配になります。楽に食べられ栄養の摂れる食事の提供が必要です。和光市では、栄養改善サービスがあり、加齢により食事の用意が困難な人に、栄養バランスのとれた食事の提供、管理栄養士による改善指導と調理支援のほか、利用者ニーズに合わせた配食サービスを行っています。寄居町でも、給食センター等を活用して配食を提供する考えはありますか。

**答** 学校給食センターは小中学校の給食調理のための施設で、高齢者の配食を行うことはできません。社会福祉協議会のふれあい配食サービスを91世帯が利用しています。

### 食事の栄養調査と指導を

**問** 健康寿命を延ばすには、適切な運動とバランスのとれた食事が必要です。高齢者世帯への栄養調査を行い、必要な世帯には管理栄養士が指導を行う体制が必要と考えますが、町の考えを伺います。

**答** 国や県が行う調査結果から高齢者の栄養に関する傾向の把握は可能で、町単独での栄養調査は考えていません。

支援を要すると認められた高齢者が、可能な限り自宅で自立した生活を送れるよう、管理栄養士や歯科衛生士などの専門職が自宅を訪問し必要な相談や指導等を行う、短期集中の介護予防サービスを開始します。

### 高齢者向け配食サービスは

**答** 91世帯が社協のサービスを利用しています



大澤 博議員

### 命のSOSに適切な対応を

**答** 状況の把握と適切な指導を今後も続けます



鈴木詠子議員

### 若年層の自殺対策

厚生労働省自殺総合対策大綱



**問** 「自殺総合対策大綱―誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指して―」では、死因第1位を「自殺」が占める15歳～39歳の若年層に特に焦点を当てた対策が新たに打ち出されました。いじめを苦しめた子どもの自殺予防について、当町のいじめの件数と昨年から始めた「いじめ対策Hyper-QUテスト」の効果を伺います。

**答** いじめは小中学校合わせて約90件報告されています。今後テストの効果を活用し、指導していきます。

**問** 当町の若者世代の自殺の傾向と対策、相談のきっかけとなるLINEなどSNSやアプリを活用した予防・防止対策について伺います。

**答** 自殺については増加傾向です。深谷市の若者サポートステーションで就労や引きこもり支援を実施。SNS活用は考えていません。県の「相談窓口広報カード」を町内全小中学校で活用する予定です。

### 地域自殺対策計画策定は

**問** 31年度開設予定の子育て世代包括支援センターに、産前産後うつ対策窓口を設置する考えは。

**答** 今後検討していきます。

**問** 自殺リスクの高さが認識されにくい性的マイノリティーの性自認は年少期です。教育現場の認識は。

**答** 教員の研修等を重ね、丁寧な指導を考えています。

**問** 地域自殺対策計画の策定について伺います。

**答** 現在策定中です。ゲートキーパー【\*5】養成と専門職(精神保健福祉士)の活用を進めていきます。

悩みを抱えていたら迷わず相談を **相談する**

【自動応答】  
メッセージありがとうございます  
10代20代の女子専用LINEです。  
☆LINE相談は4月4日から

10代20代の女子専用相談LINE



【\*5】ゲートキーパー 自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のこと。